

2. 平成30年度
優良PTA文部科学大臣表彰
実践例

札幌市立琴似中央小学校PTA

様々な学びの場「寺子屋」の取組

所在地:北海道札幌市
全校生徒数: 児童441名

学校の特徴	昭和27年に開校し、『人間性豊かな子どもの育成を目指して』を目標に学校づくりを進め、今年度開校66周年を迎える。『夢(Y)・笑顔(E)・挨拶(A)』いっぱい、の琴似中央小学校の子どもたちを目指して《チームスマイル+ONE》を今年度の重点目標としている。
地域の特徴	一戸建て住宅、低層マンション、アパートの多い地域である。JR学園都市線の八軒駅が校地に隣接しており、JRの高架が校区を通る。地域は子どもの見守りに熱心で、保護者は子どもの教育に関心が高く、教育活動に協力的であり、文化活動も活発である。
活動内容	PTAの活動をより効率的に運営できるよう、「環境委員会」や「厚生委員会」等の専門委員会を設置している。保護者と子どもが楽しく主体的にPTA活動に参画できるよう工夫を重ね、子どもたちが豊かで有意義な土曜日を過ごせるよう「寺子屋」を実施している。

特徴的な活動・運営体制

『寺子屋』～お休みの日も、学校で学ぼう～

- ・教員や保護者、地域が連携して、年間8回の活動
- ・夏、冬休みを活用し、子どもたちの学習をサポート
- ・ゲストティーチャーを招き、学習や音楽、運動、読み聞かせなど様々な経験ができることを企画



「学びの場」



「音楽の場」



「読み聞かせの場」

○地域住民と連携した取組

- ◇室内運動会◇
- ・連合町内会青少年体育部 室内運動会子ども実行委員会が主催
- ・琴似中央小学校地域連携協議会と共催
- ・実行委員会の子どもたちが企画、運営



成果

- ◎地域や保護者等の協力を得て、様々な体験的活動を実施することができた。
- ◎事業に参加した子どもたちは、体験的な活動を通して、達成感や成就感を得ることができた。

課題

- 講師やボランティアを担う人材が十分ではないのが現状であり、運営協議会を通して、人材を広く発掘していく必要がある。
- 多くの保護者や地域住民に参画いただき、「地域で子どもたちを育てる」環境と機運の醸成を図る必要がある。

おおぞら小学校父母と教師の会

学校・家庭・地域が一体となった活動の充実！

所在地：青森県三沢市
全校児童数：92名

学校の特徴	平成18年、近隣5つの小学校が統合し「おおぞら小学校」が開校した。地域にある第三中学校との小中連携に取り組み、両校のPTA役員による連絡会や教師の会議を通して、小中合同運動会や地区懇談会等の行事やPTA活動で協力し合う協働体制を進めている。また、児童の農業的活動については地域の積極的な支援が得られ、体験活動が充実している。
地域の特徴	太平洋に面した海岸地と県道170号線に挟まれた所にあり、西側は小川原湖に面していて自然豊かな地域である。また、学区内には希少な野鳥オオセッカ等が棲息する仏沼（ラムサール条約登録湿地）もある。農業を営む家庭が多く、米や野菜、漁業では小川原湖のシジミ漁も盛んである。
活動内容	学校・地域・家庭との連携を深める全校田植え・稲刈り、小中合同による環境整備 等

運営体制・特徴的な活動

保護者の学習活動

◇料理教室の開催

PTA母親委員会を中心となり企画・運営している家庭教育学級で、児童が育てた米を使った料理教室を開催している。



充実した活動にするための取組

◇児童数の減少を補うための取組

児童が在籍していない地域の世帯835戸から、準会員として協力金500円を募り、PTA活動に充てている。

◇周年行事に向けての取組

周年行事の予算積み立てを行い、周年行事年度に集金せずに済むようにしている。

地域住民と連携した取組

◇全校田植え・稲刈り

土地改良区、農協青年部、農事組合、県民局、保護者、約15名と連携して全校田植え・稲刈りを実施している。



◇町内会自主防災会とPTAが連携した防災教育

学区町内会長が東日本大震災時の避難生活の講話をするとともに、避難生活時の経験を風化させないために、実際に当時と同じようにおにぎりを作って食べる活動を通して防災意識を高めている。



○小中合同による環境整備

◇校内の環境整備

小中合同環境整備作業による学校壁の清掃と、親子でのペンキ塗りを実施している。

◇学区内の枝払い

町内会長や地域の方とPTAによる避難路の枝払い作業を実施している。



○その他の活動

PTAによる「おおぞらソーラン演舞」の披露、PTA生活委員会による地域安全マップの作成、長期休業明けのあいさつ運動 など



成果

- 世帯数の減少を補うため、地域から協力金を募ることで、活発なPTA活動を展開することができた。
- 学校便り、PTA広報誌を町内会を通して学区全戸に配ったり、地区懇談会で取組状況を説明したりする中で学校教育やPTA活動への理解が深まってきた。
- 小中学校が連携して地域に働きかけることで、学校・家庭・地域のつながりが確かなものになり、協働体制が構築されてきた。

課題

- 小中それぞれの特色を生かしながら、地域に開かれたよりよい連携の仕方を目指すこと。
- 児童を支えるための学校・家庭・地域及び行政が連携できるような場の設定。

照岡小学校PTA

< 元気・やる気・根気 >

所在地: 岩手県北上市
全校生徒数: 児童55名

学校の特徴	昭和30年7月に開校し、平成27年に創立60周年を迎えた。今年度は全校児童55名。2・3年生が複式学教である。地域・家庭との結びつきが強い。タイトルの「元気・やる気・根気」は「照小三気」として、学校要覧やまなびフェスト、PTA広報の共通のスローガンとしており、目標を共有しながら教育活動が行われている。
地域の特徴	北上川東岸、北上市の東南が学区であり、学校は奥州市江刺との境付近に位置している。そのため、北上市・奥州市両市から児童が集まっている。郷土伝統芸能も「門岡念仏剣舞」(北上市)と「佐野向神楽」(奥州市)があり、どちらも精力的に伝承活動が行われている。
活動内容	特徴的な活動・運営体制

○組織の構成・運営状況

総会・常任委員会・専門委員会と組織が機能的に構成されている。専門委員会としては、地区委員会・学年委員会・研修広報委員会の3つの委員会が設置され、PTA活動に対する会員の意見を尊重しながら充実した活動が展開されている。総会参加率は91%(平成29年度)と会員の意識が高い水準にある。

○地域との連携協力

地域の自治協議会・振興会・教育実践協議会等の団体や地区交流センター、区長・民生委員・ボランティア等、地域と連携しながら活動が展開されている。

- ・地域の方の田をかりて稲作活動(もち米)を展開している。田植えや稲刈りの体験には、地域の方の指導を得ながら行う。また、5月から11月の第1土曜日には資源回収を行っている。平成29年度も、育てたもち米を販売して得た売上金と資源回収の収益金を合わせて復興支援活動として、東日本大震災被災地の釜石市の小学校へのリンゴ贈呈をした。
- ・地区の交流センターと連携して、1月に行われる小正月行事を企画・運営している。もちつきやみずき団子作り等の体験活動を介して世代間交流も行う行事となっている。
- ・地域の行事「樺山まつり」では、まつり実行委員会に属してまつりに参画している。また、児童とPTA会員で夢あかりの作品作りと装飾作業を行い、まつり会場を彩っている。
- ・学校図書館ボランティア「はらぺこあおむし」との連携により、読み聞かせ・蔵書点検・環境整備に精力的かつ継続的に取り組んでいる。平成29年度は読み聞かせを26回、整備作業を10回行った。
- ・「門岡念仏剣舞」と「佐野向神楽」の伝承活動に保存会の協力を得ながら継続して取り組んでいる。学校での児童の練習とともに衣装の着付け教室も実施している。また、地域の秋の敬老会やふるさと芸能まつり、文化芸能まつりに出演するなどして、児童が活躍する場を設けている。PTAはその送迎や着付けなどで活躍を支えている。



小正月行事でのもちつき



読み聞かせ
「はらぺこあおむし」

成果

- ・地域との連携協力により、学校での教育活動とともに、保護者や教員の地域行事への参加率も80%以上と高い水準となっている。
- ・学校図書館ボランティアとの連携強化により、図書館のボランティア活動が活発化したとともに、児童の読書量も増加している。(5年生の1か月間の平均読書冊数は平成25年度からの5年間で1.2冊増加。不読者は5年間無し。※岩手県子どもの読書状況調査)

課題

- ・連携協力ができている地域・学校であるが、小規模校であり、さらに少子高齢化の中、後継者不足が課題である。持続可能な取り組みとする手立てを講じる必要がある。

【岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課】

宮城県宮城野高等学校PTA

<宮城野…ここでは、一人ひとりが輝きます>

所在地：宮城県仙台市宮城野区田子 2-36-1

全校生徒数：生徒数 834 名

学校の特徴	平成7年4月に「個性化・多様化の変化のための新しいタイプの高等学校」として新設され、教育活動の全分野にわたって生徒の自主性・主体性を重んじながら、社会の変化に柔軟に対応でき、他と協同して世界の平和と安定、福祉の向上のために、創造的に貢献できる人間として生徒が成長できるように支援することを理念としている。
地域の特徴	仙台市東部の、豊かな田園と閑静な住宅街の境にあり、夏季にはグラウンド全体を覆う天然芝の緑に溢れ、心をのどかにする環境に囲まれている。この地域では「田子中学校区青少年健全育成四校連絡協議会」が長年開催されており、小中高の学校及び PTA 関係者が情報を交換し合う場が設けられ、地域連携に対する理解と意識が高い。
活動内容	PTA 本部役員と各年次や各種委員会にて計画・実施される主な活動は、PTA 活動の活性化と普及を目的とし、文化祭・学校説明会・卒業式・新入生予備登校時の年4回開催する「宮城野（PTA）カフェ」、生徒のボランティアと共に取り組む「清掃活動」、年2回の PTA 会報発行、放課後活動を応援するパンフレットの「放課後活動だより（放活だより）」発行など、PTA 役員と会員による自主的で創造的な活動となっている。



特徴的な活動・運営体制



多くの保護者が PTA 活動に参加できるよう年次役員の参加人数の上限はない。平成 30 年度は 1 年次 38 名、2 年次 27 名、3 年次 21 名の計 86 名で構成され、この中から会長、副会長、会報編集委員長など本部役員が選ばれる。

本部役員になっても各種委員会に参加することが可能であり、昨年度は会長が会報編集委員を兼ねて会報の発行に尽力するなど、保護者が皆で「イベントを企画実施し、次もまた参加したくなる」場を作り出している。

特に、参加の間口を広げる一端を担うのが年4回催される「宮城野カフェ」である。この「カフェ」では無料で飲み物が提供されるとともに、学校行事などを話題として PTA 会員間の情報交換が行われている。文化祭や学校説明会における「カフェ」では中学生の保護者や OB 役員等との「情報交換カフェ」となっており、親の視点から宮城野高校を紹介・PR する場ともなっている。

成果

PTA 役員として活動に参加する人数が増加し、全体の活動が年々活発化している。

○その他の活動

・各年次行事として、「フラワーアレンジメント」や「茶話会」など、会員相互のコミュニケーションを高めるための親しみやすい行事を設定する一方、「進路研究」の講演会を開催し、進路目標設定のための情報提供を行う研修も実施している。

・清掃ボランティア活動や「PTA 会報『萌えぎ』」「放課後活動だより」発行活動を通して、生徒との協働活動や生徒応援事業を積極的に実施し、生徒にも保護者にも有意義な PTA 活動となるよう工夫している。

課題

人数が多いことによる役員間の連絡調整と係分担の割り当てがやや煩雑となっている。

大湯小学校PTA

所在地:秋田県鹿角市 / 全校児童 105名

児童の健全育成を願う、会員や住民が一体となった昼休み見守りボランティア隊の組織化

学校の特徴

観光地や農業・酪農地帯など、地理的特色のある近隣学校の統廃合を経て創立143年を迎えた。地域の特色を生かした創意ある教育課程と、地域社会との連携を柱に「知・情・意・体の調和のとれた、心豊かでたくましい子どもの育成」を教育目標に掲げている。

地域の特徴

十和田湖の南に位置し温泉町として発展してきた。八戸方面に通じる交通の要衝として、城跡を中心とした遺跡も残り、近くには特別史跡ストーンサークルがある。温泉祭りや大太鼓祭りが開催されるなど観光資源にも恵まれている。

活動内容

昼休み見守りボランティア隊:安全安心な教育環境を願い、会員や住民が学校に集まり、休み時間等に子どもたちの生活の見守りや声かけを年間通じて行っている。住民と児童の心の交流も生まれ、地域全体で子どもを育む体制がつけられている。

特徴的な活動

地域学校協働活動

- 昼休み見守りボランティア隊の組織化
(会員や住民による
休み時間等の見守り)

安全を見守るボランティア
との交流 →



- 学校図書館の活性化支援
(地域コーディネーターと連携)



- 地区別連絡網の更新整備と住民と連携した
クリーンアップの実施(地域一体の環境整備)

- 環境整備ボランティアによる校地整備
(学年部による草取り、樹木剪定)

学習支援の取組と保護者の学習活動

- 保護者や住民による学習活動等への支援
(習字、裁縫、クラブ活動、大湯音頭の指導等)
- 「湯っこ体験」の企画実施(ボランティアの手を
借り共同浴場でのマナーを学ぶ場づくり)

地域の特徴を生かした
学びの場 →



- ふるさと教育への支援(保護者や住民による
りんご、桃の摘果・収穫の指導等)

- 子どもたちを取り巻く現代的課題についての
研修(かづのPTA連合会研修会への積極的
参加)

PTA行事の企画や生活指導

- OPTA教育講演会の開催(心の健康等)
- 「声かけ運動」の実施(地域の方も参加)
- 親子一緒にの学年部事業(食育給食会やスポーツ
レク等)



地域団体との連携協力

- 花壇整備等の地域美化活動
(大湯パンジーの会と協働)



- 童謡練習会の開催(湯の華コーラスとの交流)

成果

- ・昼休み見守りボランティア隊の活動が定着し、見守られる安心感から児童の生活に
落ち着きがみられる。
- ・学習活動等の支援が充実しており、児童の学ぶ意欲につながっている。
- ・生涯学習団体との協働により、豊かな心を育てる場が創出され、学校の教育目標
の達成に寄与している。

課題

- ・会員数の減少に対応するため、地域住民との更なる連携を図っ
ていきたい。
- ・近隣PTAとのネットワークを保ち、中学校や高等学校関係者を交
えて、地域課題についての情報交換と協議を続けていきたい。

村山市立楯岡中学校PTA

夢をかなえる力を育むPTA活動

学校と協働して取り組む生活習慣改善事業「楯中パワーアッププロジェクト」

所在地：山形県村山市
全校生徒数：434名



学校の特徴

平成17年に楯岡中・西郷中・袖崎中の3校が統合して「新楯岡中学校」としてスタートし、今年で14年目を迎える。学級数17（普通学級13 特別支援4）全校生408名の中規模校である。

地域の特徴

村山市中心部に位置し、楯岡・西郷・大倉・袖崎の4つの行政区域からなる。最近では、東京オリンピック・パラリンピックのブルガリア共和国のホストタウンとして登録され、全国初の事前キャンプ「ROSECAMP」を開催し注目を集めている。

特徴的な活動

楯中パワーアッププロジェクト

○親子学習会→ファミリーミーティング

1学期保護者会時に、親子で同じ講演を聞く親子学習会を実施している。H29「やる気スイッチを入れる方法」(九州大学准教授横田晋努氏)の保護者参加率は70%超であった。講演の後段では、生徒・保護者・講師によるパネルディスカッションを行い、意見の交流により学びを深めた。

さらに本学習会での学びを家庭内で実施しやすいよう、PTA母親委員会が「ファミリーミーティングの進め方」のモデルVTRを制作し、提案した。その結果、80%超の家庭からミーティング結果の記録が提出され、家庭でのあたたかな交流や生活リズム改善に対する意識の高まりを感じた。



H29親子講演会パネルディスカッション



○子育てミニ講座の開催

PTA母親委員会が、子育てのレベルアップを目指し、保護者向けに「子育てミニ講座」を実施している。PTA母親委員会が話し合い、学びたい内容と講師を決めた。H28はアンガーマネジメントに関する内容、H29は思春期の子どもとの接し方と勇気づけをテーマに和やかな研修会を開催し、好評だった。



○むらやま4つの約束

ネットトラブル防止を目的に市PTA連合会、村山市子ども会育成会と校長会が協働で作成し、市内の全家庭に配付している。これには親がメディア利用の手本を示すことや規則正しい生活リズムとの関連も盛り込んである。

本校PTAでは保護者会等で、地域をあげて約束を守ることの意味と重要性を積極的に呼びかけ、地域全体での啓発に努めている。



成果

夢をかなえる力を育むための方法として、生活習慣の改善にスポットをあて、市内PTA連合会とも連携して活動を展開した。この結果、学校と家庭・地域が連携し、健康づくりへの意識が高まり、市内各地域にも活動が広がられた。また、生活習慣を改善すると、やる気のスイッチが入ったり、自尊感情が高まったりすることがわかった。

今後の方向性

メディアの利活用上の課題に対しては、危機意識を持ち、その解決に向けて継続して取り組む必要がある。地域の各種団体と連携しながら、望ましい親の判断・対応について研修の機会を設けていく必要がある。

下郷町立旭田小学校PTA

< 高い参画意識と地域との連携 >

所在地：福島県南会津郡下郷町

全校生徒数：児童83名

学校の特徴	明治6年に開校し昭和49年に100周年を迎えた。昭和24年には旭田小学校PTAが創立され、現在まで活動している。平成16年には3つの分校が廃校となり、平成17年新生旭田小学校となった。
地域の特徴	福島県会津地方の南部、下郷町の南部に位置し、面積の8割が山林と田畑を占め、人口は現在約2400人、世帯数は860戸で、そのほとんどが二世帯家族である。町の豊かな自然や歴史文化を求めて、近年観光客が増加している。
活動内容	<div style="border: 2px solid green; padding: 10px;"><h3 style="text-align: center; background-color: #00b050; color: white; margin: 0;">特徴的な活動・運営体制</h3><p><運営体制> * PTA組織は6つに分かれており、会議への出席率は90%以上と会員一人一人の参画意識が高い。それは、年2回の総会で全会員の総意を得たり、常任委員会を年4回開いたりして、会員の共通理解を図っているためである。 * 各行事において、保護者と教師の連携が充実しており、協力的な活動がなされている。</p><p><特徴的な活動> * 地域の高齢者や指導者を講師に招き、郷土料理「しんごろう」づくり、自然観察学習、花植えの指導等を行い、地域の伝統文化や自然を学ぶ貴重な機会となっており、世代間交流活動にも積極的に取り組んでいる。 * 家庭との連携が不可欠なむし歯予防について、学校歯科医や歯科衛生士の指導等を家庭に連絡帳などで連絡し啓蒙を図った結果、むし歯予防・むし歯治療率は全校性の90%を超えた。 * 「PTA家族の絆を深める推進事業」として、「わが家のふれあい訓づくり」「ふくしまを17字で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施することを全家庭に呼びかけ、集まった作品を学校だよりやPTA会報で紹介した。この取組により、PTA会員相互の家庭教育に対する意識を高めることができた。</p></div> <div style="margin-top: 20px;"><p>○地域住民と連携した取組 ◇「茅葺き屋根の葺き替え体験」◇ PTAと保存会が連携し、町内の国指定伝統的建造物群保存地区において、茅葺き屋根の葺き替え体験学習を実施した。地域を深く理解するよい機会となった。</p><p>○食育の取組 ◇「郷土料理」のしんごろうづくり◇ 地域の高齢者などから学んでいる。</p><p>○地域縦ぐるみで子どもたちを育てる取組 ◇諸団体との連携◇ 警察署・交通安全協会・交通安全母の会・防犯協会とPTAが連携して児童の安心安全な環境づくりのために交通教室・防犯教室を実施している。また、放課後子ども教室や読書ボランティアとも幅広く連携し、多くの地域の方々と地域の子どもたちを育てている。</p></div>

成果

- ・参画意識が高く、児童減少に伴うによる組織のあり方についても見直す機会を持つなど前向きな取組が多い。
- ・高齢者や保存会の協力により伝統文化や自然に多く触れる体験が行われている。
- ・むし歯指導やふれあい訓づくりなどPTA活動が家庭教育の醸成につながっている。

課題

- ・会員数が減少しており、PTAのあり方検討が必要であり、今後さらに地域住民との連携が必要となってくる。

【 福島県教育庁社会教育課 】

守谷市立大井沢小学校PTA



全員参加で、自分たちの意思による自主的なPTA活動

所在地： 茨城県守谷市
 全校生徒数： 児童550名

学校の特徴	地域人口・児童生徒数の増加により、平成7年に隣接の松前台小学校の分校という形で開校した市内で最も新しい小学校でありながら、当時100年以上の歴史を持つ大井沢小学校を統合し、その名前を継承している。長い歴史・伝統と新興住宅地の活力が融合した学校である。
地域の特徴	茨城県南西端の守谷市は都心から直線距離で30～35km位置し、利根川、鬼怒川、小貝川に囲まれた水と緑が豊かな地域である。つくばエクスプレス開業に伴う人口増加により、それまでの町政から平成14年に単独で市政に移行し、県内で市政を敷く自治体としては最も面積が小さい市であると同時に最も人口密度が高い自治体である。本校は校区内に利根川、鬼怒川の合流地点を抱える特に自然豊かな地区に立地している。
活動内容	執行部である本部役員会、議決機関である運営委員会、各委員会、各部、PTA有志団体それぞれが情報を共有しながら、主体性を持ち、全員参加の活力あるPTA活動を目指している。

PTA運営ビジョン

○基本的な考え方

PTAの情報共有が意味を持つためには、第一に、会員が情報を自分達のこととして受け止めることができるように、全員が何らかのPTA活動に参加している(全員参加)こと、第二に、会員がPTA活動に参加していることを実感するためには、自分達の意志で活動している(自主的活動)ことが大切である。

○制度設計

過去に本部役員会や運営委員会に集中していた権限を分散し、各組織が自主的に活動できる制度としている。

- ・各組織ごとの予算を決めず、自主的に活動内容と予算を立案
- ・運営委員会の役割のシンプル化：本部からの提出議案、各組織から提出された活動計画書・予算申請、規約の改正案のみを審議
- ・本部役員会から独立した委員会制度

特徴的な活動

○OHL(大井沢ヒューマンライブラリー)

PTA有志及び地域の方が協力し、子ども達の情操教育に資する授業の支援を行っている。

読み聞かせ、授業補助(町探検、公園探検、ザリガニ釣り、田植え、調理実習、手縫い・ミシン、パソコン、お正月遊び、理科実験等)



委員&部員決め風景

主な定期活動

PTA主催のお祭り「ワイワイおおいさわ」の開催／学校整備活動／通学指導／安全パトロール(毎日)／交通安全教室／広報誌発行活動／運動会・持久走大会等の運営支援／会員研修会／ベルマーク収集



保護者による読み聞かせ

○地域住民とのふれあい・連携

◇文化継承、食育◇

学校、地域の方々、PTAが協力し、子どもたちが水耕を体験。収穫したお米は、家庭科調理実習で使用するとともに、ワイワイおおいさわで保護者がカレーライスとして提供。



田植え



稲刈り

◇交通安全指導◇

普段通学路で子供達を見守ってくれる地域の防犯連絡員とPTAが交通安全教室に協力。



成果

- ・会員が年度ごとにさまざまな活動を行うことにより相互理解が醸成され、それぞれの立場で責任を持って主体的に活動する意識が生まれている。
- ・学校、地域、PTAが協力することにより、教室の内外で子ども達に幅広い教育を提供でき、よりよい心の成長に貢献できている。

課題

- ・共働き世帯が増え、これまで主だった平日午前中の活動が成り立たなくなっている。時代に即した対応が課題。
- ・会員の積極性にまだ温度差があり、いかににより多くの方に意識を高めてもらうかが課題である。

鹿沼市立東中学校PTA

<PTAを核とした地域力強化と生徒・地域によるまちづくり>

所在地: 栃木県鹿沼市府中町393
 全校生徒数: 766名

学校の特徴	平成31年度で創立70年を迎える、鹿沼市で最も生徒数の多い大規模校である。「自立自啓 自尊他尊」を教育目標に掲げ、生徒に育成したい「生きる力」として①心身の健康②意思決定能力③人間関係形成・社会形成能力④確かな学力⑤将来設計能力を設定して、大規模校の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。生徒会活動や部活動に熱心に取り組む生徒が多く、関東大会や全国大会での活躍も見られる。
地域の特徴	鹿沼市中心部を南北に流れる黒川の河岸低地に広がる東部地区と河岸段丘上の東部台地区を学区とし、主に商業地・住宅地として賑わいを見せている。人口は鹿沼市の約3分の1を占め、県内外からの流入者も多い。

活動内容

特徴的な活動

東雲バラ園一般開放デー

【開催時期】5月、10月

【取組内容と工夫】

・平成26年度に地域ボランティア・生徒・教職員が協力して約200㎡のバラ園を造成し、その後校区内自治会やコミュニティセンター等と連携し、月に1回の育成管理作業を地域住民・保護者・生徒とともに実施している。



・平成27年度から毎年5月と10月の2回、一般開放デーを開催している。一般開放デーでは、PTAの出店する模擬店やバザーに加え、科学部・オーケストラ部による発表、保健委員会の健康啓発活動等を行うことで地域住民と中学生の交流が促進されている。



東雲Men's Club

母親中心のPTA活動に父親の積極的な参加を促すため、平成27年度PTA会長の発案でMen's Club(おやじの会)を立ち上げた。老朽化した施設の修繕など校内環境の整備を行うほか、強歩大会の開催に当たっては、生徒の安全確保のため案内板を作成しコースに設置するなど、様々な活動に取り組んでいる。



○生徒の地域貢献活動の拡大

東雲バラ園活動を契機に地域とのつながりが深まったことにより、生徒が学区内コミュニティセンターの主催する「祭」や青少年健全育成団体の啓発活動等でボランティアをする機会が増えた。ボランティア活動を通じて生徒の「自己肯定感」や「人間関係形成能力」の高まりが見られることは、東中学校の教育目標に迫るものであり、PTAの願いにもつながっている。



○「東雲弁当料理教室」

和食がユネスコ無形文化遺産になったことを契機に、日本の食文化を継承するため、料理教室を開催し、家庭部の生徒、PTA、地域の方々が専門家から和食のメニューを学んだ。学習の成果として「東雲弁当」を作成し、PTAや地域の方々を対象に発表会を開催した。100食作成した弁当が約30分で完売するほどの盛況であった。

成果

- ・バラ園の整備を契機に学校・PTA・地域の連携が進み、PTAの活動に地域のボランティアが加わるなど「学校を核とした地域づくり」につながる取組が行われるようになった。
- ・バラ園の一般開放デーなど学校やPTA活動に対する積極的な情報公開を通じて、地域住民の学校に対する理解が深まった。
- ・地域とのつながりが深まったことで、生徒の地域貢献活動が盛んになり、地域からの信頼が醸成され、生徒の自己肯定感や人間関係形成能力も高まっている。

課題

- ・生徒が地域の行事に自主的に参加し、地域との結びつきを深めるためにも、PTAが地域と学校の橋渡しの役割を推進する。
- ・持続可能な活動となるよう、学校と連携し、人・物・資金面での循環型活動を継続して推進する。

【 栃 木 県 教 育 委 員 会 生 涯 学 習 課 】

高崎市立城東小学校PTA

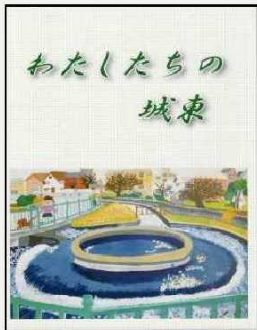
＜スローガンは「ENJOY」 親子で楽しみながら地域と連携した活動を実施＞

学校の特徴	昭和29年に開校し64年間の歴史と伝統をもつ。学校の基本目標は「心身共に健康で、豊かな情操と知性を備え、強い意志と実践力に富む児童の育成を目指す」であり、全職員が協力して「学校に来るのが楽しい」と実感できる学校づくりに取り組んでいる。
地域の特徴	高崎駅東方に位置し住宅地の静かな環境の中にある。近年では高崎駅東口周辺の整備事業の伸展に伴い、急速に変貌しつつある校区である。校区内には、高崎文化芸術センターや建設中の群馬コンベンション施設（仮称）などがある。その一方で、古くからの居住者も多く、区長会を中心に多くの関係団体が学校に協力的である。また、保護者も教育熱心でありPTA活動が盛んである。

活動内容

社会科副読本「わたしたちの城東」の作成及び活用

- ・3年社会科副読本「わたしたちの城東」(A4、101ページ)は、PTA役員がそれぞれの地区を分担し、地域の特徴的な施設や神社仏閣等を取材し、その取材を元に資料を作成している。平成26年度に第3版を出版した。
- ・その副読本を活用して、親子で地域を歩き、地域について学習する「ぐるっとめぐるツアー」を企画運営している。第26回となる平成29年度には児童及び保護者約300名が参加した。地域住民による史跡の説明や、地域団体による巡路の安全確保など、地域と連携・協力しながら実施している。



■父親による積極的なPTA活動

父親の積極的なPTA活動を促すため、21年前に「父親ネットワーク」を結成し、年4回のキャンプ開催や地域行事への参加に継続して取り組んでいる。特に高崎まつり「手づくりだるまコンクール」では、過去4年間で3度の優勝を勝ち取ることができた。



■土曜スクールへの積極的な協力

土曜スクールの学習支援ボランティアとして、年間25回、約40名の保護者が協力している。

■その他の活動

- ・地域団体等と連携した「PTA ふれあいバザー」の開催
- ・PTA セミナーの開催 ・読み聞かせ活動
- ・「危険地区実態調査」を実施し、校区内安全マップ及び冊子を作成 ・地域と連携した安全見守り活動

成果と課題

- ・学校・家庭・地域が協働して親子で参加する地域学習を開催することで、親子で地域への親しみが深まるとともに、社会全体で子どもを育てる意識が地域に広がっている。
- ・父親ネットワークによる様々な行事の開催、またその行事に参加することで、父親が学校や児童と関わる機会が増え、父親の子育て、PTA活動への参加意識が高まった。
- ・課題として今後更に情報発信を充実させ、地域と連携・協働したPTA活動をより積極的に進めていきたい。

所在地：高崎市江木町128番地1
全校生徒数：児童721名

【群馬県教育委員会事務局 生涯学習課】

川口市立幸町小学校PTA

【新たな時代を切り開くPTA活動】



所在地：埼玉県川口市幸町3-8-33
 全校児童数：649名

学校の特徴	学級数23（通常20・特別支援3）に加え、難聴言語指導教室3教室がある。児童数増加及び校舎老朽化に伴い、平成29年2月末に新校舎が完成した。埼玉県初となる7階建ての高層校舎であり、川口市初の公民館（川口市立幸栄公民館）との複合施設である。
地域の特徴	JR川口駅近くに位置し、川口市役所や中央図書館等の公共施設が徒歩圏内に所在する。また、駅周辺の川口銀座商店街やふじの市商店街等の各商店街・繁華街にも近い。マンション等の高層ビルが林立している地域であり、今後も児童数増加が見込まれる地域である。
活動内容	総務委員会、常任理事会・理事会、専門部（広報部・文化部・環境補導部・保健部）、学年・学級会、学級懇談会等の組織がある。年1回のPTA総会、月1回の常任理事会・理事会、専門部会は定期的に開催し、各諸行事の運営に努めている。 平成28年度「埼玉・教育ふれあい賞」受賞。

特徴的な活動

【SSS・幸町サポートスタッフ】

校舎老朽化及び児童数増加による校舎建て替え工事に伴い、児童の学力・徳力・体力向上のため平成27年4月結成。平成30年度に従来の学校応援団とSSSを統合し「学習」「環境整備」「安全」の3つに再編した。学校HPに情報（要綱・登録用紙等）を掲載し、メールを活用して保護者がいつでも参加しやすい環境づくりに努めている。



学習

環境整備

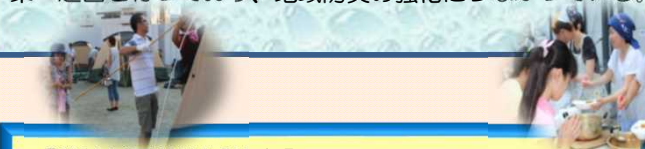
安全

【スポーツ大会】（町会主催・PTA協力）

毎年、各町会の企画により、児童が地域に親しむ機会をつくっている。（平成29年度は体育館・公民館で実施）

【防災キャンプ】（町会主催・PTA協力）

阪神淡路大震災を契機に、20年間継続している5町会主催の本キャンプは、起震車体験や消火訓練等の企画・立案・運営を行っており、地域防災の強化につながっている。



【学校運営協議会】

「後援会長、各町会・自治会長、PTA会長、主任児童委員、公民館長、学校代表」において、これからの学校・地域・PTA活動の在り方について熟議を行っている。



- 【広報部】「教育活動」の伝達・周知
 広報紙「さいわい」の年4回発行。入学式・運動会・校内音楽会等の各行事撮影。平成29年度市PTA連合会広報紙・写真コンクール「写真の部」「広報紙幼小の部」において「銅賞」受賞。
- 【文化部】「文化的活動」の企画・実施
 講習会を企画・実施。今年度はアロマ教室を実施。学用品リユースの運営・実施。
- 【保健部】「健康増進・食育」活動推進
 食文化の理解・継承を図るため、給食試食会を年2回開催。児童の健康課題解決を目的とした学校保健委員会を年2回開催。
- 【環境補導部】「学校内外の環境整備」活動推進
 七夕祭り巡回、ベルマーク集計、赤い羽根共同募金活動を実施。七夕祭りでは「おやじの会」と連携して巡回を実施。
- 【父親】の教育活動参加
 「おやじの会」による七夕補導（7月）や運動会等での警備協力、土日での活動（ドッジボール・バスケットボール）を実施。

成果

- 川口市の中心地で新住民も多い中、保護者のSSSへの参加意識が高い。
- 学校HP（メール）での積極的な情報提供により、行事等への参加者が増加している。
- 全国に先駆けて組織された保護者会（昭和10年創立）であり、約80年の実績につながっている。保護者の教育への意識が高い。
- コミュニティ・スクールの指定により、今後、地域の課題解決へ取り組む。

課題

- 保護者・地域のニーズに沿った取組が必要である。
 （迅速な情報提供・活動協力者の増加・地域課題対応）



コバトン

【埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課】

流山市立長崎小学校PTA

< あいさつでつなぐ、学校・家庭・地域の絆 >

所在地：千葉県流山市

全校生徒数：児童590名

学校の特徴	昭和53年に開校し、平成30年度に創立40周年を迎える。教育目標「夢をもち、努力する心豊かなたくましい子どもの育成」を目指して、家庭や地域と連携した教育活動の充実を図っている。
地域の特徴	流山市の南東部にあり、住宅地と森や田畑に囲まれた自然豊かな地域である。地域との連携が強く、PTAや地域の方が積極的に活動する姿は、古くからの地域住民と近年開発の進んだ住宅街の共働き世帯とで一体となり、「地域の子どもたちを地域で見守る」体制が整っている。
活動内容	専門委員、教職員、行事ごとに募るボランティアなどの協力を得ながら、より多くの保護者が、負担なく学校の教育活動に協力できる環境づくりを実施している。

特徴的な活動・運営体制

ボランティア型の運営

- お手伝いボランティア** (96名)
 - ・運動会、学校清掃、バザーなどの各行事前に募集の手紙を配布
- 読み聞かせボランティア** (37名)
 - ・1・2年生〈年14回〉、3~6年生〈年7回〉
 - ・日程表の中から、曜日を選択して参加
- 図書整備ボランティア** (30名) 各学期〈2~3日〉
 - ・図書室の本の修繕・図書台帳の管理・書架整理など
- クラブ活動補助** (3名) 〈年8回〉
 - ・子どもたちと一緒に活動に参加し、手伝いなど
- 地域ボランティア** (自治会・保護者：167名)
 - ・スクールガード…毎日10時~11時に校内巡回
 - ・下校時の見守り活動…1年生の下校時に一緒に歩行危険箇所立つなどの安全指導



○PTA組織

本部役員構成：PTA会長(1名)・副会長(保護者2名・教職員1名)・書記(2名)・会計(保護者2名・教職員1名)
 運営委員会構成：校長・教頭・本部役員・専門委員会委員長・副委員長

特別活動：お手伝いボランティア・読み聞かせボランティア
(登録制) 図書整備ボランティア・クラブ活動補助・登下校時見守り・PTAバレーボール部・卒業対策委員会

○子どもの安全を守る活動(学校・地域・PTAが一体となって実施)

学校：登下校時の交通安全指導、青色防犯パトロール、講習会
地域：校内巡回、下校時の見守り隊、「防犯協力の家」看板掲示
PTA：登下校時の交通安全指導、通学路の危険箇所アンケート

○家庭教育講座(公民館とPTAで協働)

親が家庭で子どもの教育を行う上で必要な心構えや接し方などを集団で学習する場として、全保護者と一般の方を対象に年1回実施。(参加者40名)

子育て世代の防災・減災セミナー、親子のコミュニケーションの方法、体験学習・防犯教室 など

成果

- ・ボランティア型の運営により、各行事や様々な教育活動の協力が得られ、学校と地域・PTAが連携した教育活動の充実が図られている。
- ・地域ボランティアとして、自治会や保護者と連携し、地域全体で子どもたちの安全を守る取り組みを進めている。
- ・PTA組織の中に、ボランティアによる運営体制の仕組みづくりにより、多くの保護者が活動に協力しやすいように工夫している。

課題

- ・今まで行ってきた活動を継続していけるように、会議や打ち合わせの回数を減らすなどの個々の活動について見直しを図り、保護者に負担のないように活動を進めていく必要がある。
- ・保護者が地域の一員として、子どもたちの活動に関われるよう、今後も地域とつながる活動を大事にしていきたい。

【千葉県教育庁教育振興部生涯学習課】

荒川区立第三瑞光小学校PTA

< 地域と共にあるPTA >

所在地:東京都荒川区南千住
全校生徒数:児童576名

学校の特徴	1908年(明治41年)に開校し、本年、110周年を迎える歴史のある学校です。和の文化を大切にし、書道の授業や和太鼓・箏曲の練習に取り組んでいます。また、近くに義肢・装具サポートセンターがあることから、障害者教育にも力をいれています。
地域の特徴	下町にあり、地元の繋がりが大変濃い地域です。PTAのOB・OGには地元で生活し、商売を行っている方々も多く、親の代から子、孫と同じ学校に通う家庭も珍しくない地域です。また、素盞雄神社のお祭りは地域の方総出で二点棒神輿というあまり例のない神輿を担ぎ、大変賑います。
活動内容	年2回の活動誌「はぐくみ」の発行、ベルマークの収集、学校行事への支援のみならず、南千住地区委員会などが主催する行事に打合せから参加し、児童に様々な体験の場を設けています。

特徴的な活動・運営体制

* 主に南千住地区委員会と連携を図り、地域行事に積極的に関わっている。

○ 9月:わくわくまちあるきたんけん隊

南千住は平安時代に創建された素戔雄神社、杉田玄白らの解体新書ゆかりの回向院、首切り地藏など歴史 深い街です。そこを中学生ボランティアと共に、小学生を案内、散策します。

○ 10月:南千住なかよしまつり

毎年4千人以上の来場者があり、南千住地区の各小中学校、PTA、町会、消防・警察、商店街など多数の協力を得て、和太鼓やマーチングバンド、模擬店やゲーム等企画されます。

○ 12月:社会を明るくする運動街頭パレード

南千住地区の各小中学校、PTA、町会、警察、商店街、民生委員やボーイスカウトなど各種団体が小・中学生のマーチングバンド演奏のもと、パレードを行います。



○ 地域住民と連携した取組

◇ラジオ体操◇

地元の3つの町内会と協力し、夏休みの2週間、実施。三瑞小校庭、神社境内、防災公園の三ヶ所、児童だけでも1日100名を越す参加。

◇献血◇

近隣の小学校、および町内会及び日本赤十字社と協力して献血運動を行っています。

○ 小学校間の連携

◇連合運動会◇

近隣の6校の小学6年生による運動会が毎年、10月に行われます。各小学校のPTAも協力し、周辺警備や受付等の業務を支援しています。

◇講演会◇

荒川区を4つの地域に分け、各地区ごとにPTA主催の講演会を持ち回りで言い、相互交流の一助となっています。

○ 伝統行事の継承

地元の方の協力を得ての餅つき
地区委員会の行事の凧揚げ

成果

- ・このような地域のイベントは子供だけ、大人だけではない、多様な世代が集まるため、学校内だけでは得られない豊かな体験ができた。
- ・子供たちの地元に対する理解・関心が高まった。
- ・顔見知りの大人が増え、挨拶の機会が増えた。

課題

企画自体は日曜日なのですが、その打ち合わせは平日の夜が多く、小学生前後のお子さんを持つ家庭にとっては参加が難しい場合がある。

海老名市立大谷小学校PTA

<50年 つながる絆 これからも>

所在地:神奈川県海老名市
全校生徒数: 児童565名

学校の特徴	海老名市の東南に位置し、丘陵地帯の一角、国分寺台にある学校で、昭和44年に開校、今年で開校50周年を迎える。小中一貫教育を行っており、学校教育目標である「自立・夢を拓く人」は、中学校区で共通の目標となっている。校内では、児童会活動が盛んで、児童を中心にあいさつ運動や思いやりの活動に取り組んでいる。
地域の特徴	学校の近くに、商店街や郵便局・銀行等があり、校区は、閑静な住宅街と昔ながらの旧家が入り交じった地域で、自然環境も多く残っている。特に西側の大谷北地域の水道路は、まだ自然が豊かで、いろいろな草花・昆虫が生息している。地域の方も学校に協力的で、朝の立哨では多くの方にご協力をいただいている。
活動内容	・地域の方々や「チチオーヤクラブ」の協力のもと、PTA主催の「大谷っ子まつり」や「わくわくバザー」で子どもたちと地域の交流を深めている。 ・家庭教育学級や給食試食会など、PTA主催の活動を多く行っている。

特徴的な活動・運営体制

* 各取組等において会員の意見や要望をアンケートで集約するなど、会員の総意を積極的に反映させた活動を行っている。

特に、今年度は、これまでの学級委員を学年委員に変え、仕事も精選したことで、より多くの会員が関わりやすい仕組みを作った。

* 家庭教育学級では、スマートフォンの取扱や一人一人の個性に応じた整理方法など、今日のかつ身近な課題等についても積極的に取り入れ、会員の生涯学習に寄与することができている。

開催は、年2回を基本とし、無理なく実施できるよう工夫している。



○地域住民と連携した取組
◇サマースクールの実施◇
PTAと学校応援団運営委員会（地域学校協働本部）が連携し、地域の教育力を生かした社会教育活動を実施している。
平成29年度は、4日間で延779名の児童と延45名の保護者ボランティアが参加した。



○その他の活動
交通安全教室、わくわくバザー、花いっぱい活動 おはなし会 など

成果

- ・会員の意見を反映させた運営を行うことにより、保護者が活動に参加しやすくなった。
- ・家庭教育学級では、スマートフォンのルールについて参加者自身が家庭で話し合うなど、その場だけの学びではなく、実生活につながる学びとなるなど、大きな成果があった。

課題

- ・より多くの会員が無理なく活動を続けられるための方策についてさらに検討していく必要がある。
- ・より多くの地域住民に学校と関わってもらえるような活動を展開していく必要がある。